

市長との対話集会 概要（20240720）

■日 時：令和 6 年 7 月 20 日（土）10 時～12 時 52 分

■会 場：鶴岡アートフォーラム 1 階フォーラム

■参加者：11 名（14 名申込）

■市側参加者：市長、総務部長、健康福祉部長、教育部長、政策企画課長、
子育て推進課長（進行）

○参加者 ●市長

○全国的に人口減少が進み、消滅可能性自治体にも入っている中、日常の中で身近で寄り添ってもらえる、話を聞いてもらえる環境があり、安心感を持てることが子育てしやすいまちにつながるのではないかな。保育園、子育て支援センターを運営しているが、そういった面から地域を支えていきたい。

●消滅可能性自治体というのは、20 代 30 代の若年女性人口が 50%以上減少している自治体を定義したもの。鶴岡市は改善している自治体に入っている。
人口減少問題では、特に若年女性人口の減少への対応策が必要。具体的には女性も男性も働きやすい職場や環境づくり。その中で、保育園の役割は重要。
また、ざっくばらんにまちづくりについて話し合える機会を設けることが、住みよい街にしていくための基本。ぜひ一緒に取組みを。

○鼠ヶ関に住んでいるが、地域にあるのは学童でなく放課後子ども教室。スタッフは地域のボランティア。鶴岡に働きに行くので、出勤も朝早く、時短勤務でも帰りが遅くなる。放課後子ども教室では、長時間預かってもらうのが難しい。改善してほしい。
医療の面でも、地域に小児科がないので大変。保育園から職場に連絡が来て、鼠ヶ関に迎えに行って、また鶴岡に来て受診する。
いい地域だが、生活しづらい面もある。市内に引越しする人も多く残念。

○学童保育所の職員をしている。鼠ヶ関のような（学童がない）地域への設置は、鶴岡市学童保育連絡協議会でも重点的に要望している。
市内の学童も、入所率 40%超。1 年生は 60%以上のところも。学童は子供たちの成長にとって重要な施設になってきた。保護者が安心して働ける環境づくりにも繋がる。
一方、ただ施設があればよいのではなく、設備の充実も必要。保育園に比べると遅れている。民家を改修した施設もあるが、小学生の集団を預かるとなると、専用の施設でないと難しい。地域のコミュニティがしっかり成立している街、保護者が地域に対して信頼を寄せられる街は、子育てしやすいのではと思う。
学童の職員と地域が協力していくと、より安全安心な街にできると思う。市と協力しながらやっていきたい。

●放課後の子どもたちの過ごし方への行政の関与の重要性が、ますます高まっている。
一方、従前の市の学童に関する取組みが消極的だった。今後は変えていく。5 学区学童も変えた。
地域の産業構造が変わると、人口減少というのは避けられない面がある。その中で学校や学童、公共施設をどう配置していくかは難しい課題。
地域コミュニティとの連携を含めて、きちんとニーズを捉え、市全体の公共施設の適正な配置を図って、住み続けられる環境を提供していかなければならない。学童も、学校やコミセンとの合築等の手法も検討していく。国にも支援の拡大を要望しているところ。

○羽黒学区に住んでいる。
子育てで思い詰めていた時に行政の相談窓口を利用したところ、親身に寄り添ってくれた。

取組を継続しつつ、お母さん達が見つけやすいように情報発信もお願いしたい。

- 気軽に相談できる体制をまず市がしっかり整備し、さらに、誰もが子どもの育児で悩んでいる方を支えていけるような地域になっていく必要がある。
例えば子育て支援センターが15ヶ所あるが、建物があると広報で周知するだけでなく、初めて行く人でも安心して話ができるような仕組みを整えることが重要。
市としては、まず相談を受け止めて、困りごとの内容によって、民間企業や別の機関等により適切な窓口につないでいく、という体制づくり（全世代型地域包括ケア）を進めていく。

- 第6学区に住んでいる。鶴岡にIターンしてきた。子どもは4人。
鶴岡に引っ越しする際、4人を保育園に入れるための手続きをしたが、遠方にも関わらず、市役所で面接をする旨の連絡が急に届いたり、結果的に同じ園には入れなかったりと、「子育てしやすいまち」とは真逆の印象。
地域コミュニティがしっかりしているので、県外出身の母親は打ち解けるのが大変だった。
子育て支援の制度はあっても、使いにくいもの、対象外のものも多い。例えば病児保育、施設の定員が2名だと、4人同時に病気になったら預けられない。
「子育てしやすいまち」とは、子育て世帯向けの施策だけが充実しているのではなく、公共施設や医療機関、交通機関等も充実した、全世代が住みやすいまちではないか。鶴岡の経済成長率が上がっているという話だが、還元されている実感もない。
行政でできることばかりではないだろうが、まず行政が声を上げて、官民関係なく、鶴岡というまちを盛り上げてほしい。

- 仕事の基本はホスピタリティ。一般的なルールはあるにせよ、個別の事情に応じて配慮していく姿勢が必要。手続きについて改善をしなければいけない。大変申し訳ありませんでした。世の中理不尽なこともあり、市役所だけではコントロールできない部分もあるが、まず私たちでできることから始めたい。最初は小さな波紋かもしれないが、できるだけ大きなインパクトにつながるように、「これを変えたら、もっとよくなるんじゃないか」という姿勢で、組織力を発揮し取り組んでいく。そのためには課題を具体的に捉え、具体の制度構築、制度改正を進める。
鶴岡の良い面、悪い面、色々あると思うが、今の環境をどうやったら良くできるんだろうか、という視点で取組むことが、街を変えていく力につながる。ぜひ鶴岡の良い面、改善できるところを見出して、一緒に取り組んでいただければ。

- 藤島地域に住んでいる。子ども3人。
先日市長に署名をお渡ししたが、酷暑対策でスクールバスを増便していただき大変感謝申し上げます。家庭の事情や学童の利用により、バスの利用のニーズも変わってくる。安全対策を十分に実施しつつ、しっかりとした対応をお願いしたい。
友人より、茅原地区や羽黒の希望ヶ丘地区では、登下校の時間が40～50分以上かかるという話を聞く。そういう状況を改善することで、各家庭の負担が減り、「子育てしやすいまち」に繋がるのではないかと。
ぜひ第3期の子育て支援事業計画には、スクールバスや学童の運営状況の改善について盛り込んでほしい。

- 人口減少局面では学校の統廃合により、子供たちが、身近な学校に通うことが難しくなっている。学校や学童も近くにあるのが理想だが、それが難しいとすれば、できるだけ安全に、負担なく移動できるようにすることが重要。今後、学校や学童の整備を進めるにあたっては、ご指摘の点をしっかり受けとめて、検討していきたい

- 第3学区に住んでいる。子どもは5人いて、もうすぐ6番目が生まれる。
幼稚園から「ご両親がお休みの時はできるだけ家庭保育を」という通知が来たが、休みの日に用事を済ませたり、気分転換をしたい時もあり、その辺をもう少しみ取ってもらえると、

という思いがある。

行政の窓口の人には、子育ての悩みを聞いてフォローしてもらったり、保健師や臨床発達心理士の人たちも、子どもの発達の関係ですぐに相談に乗ってくれたりして、その子の特性にきちんと向き合って対応してくれる環境はありがたいと感じている。

- 行政に気軽に相談できる「断らない相談窓口」、地域包括ケアという取組みを厚生労働省が推進している。

健康福祉部だけでなく、市役所の全職員がこの考え方を学んで、子育て世代や高齢者等、色んな悩みを抱えている方に寄り添う体制を、全庁的に構築する必要がある。

庄内地域は発達についての相談体制が弱い。大きな課題だと捉えている。県知事にも言っている。ただ、相談体制を整備するにはお金が、と皆さん非常に及び腰。

子どもというのは、その状況に応じ的確に指導を受ければ伸びていく。支援が遅れることがないように、体制を充実させていかなければならない。

今も、保育園がグレーゾーンの子の対応で職員を加配した場合、市から人件費を補助しているが、我々自身がもっと勉強し、実態を把握して、悩みを抱えた方々に対する確にアドバイスできる体制を構築していくということが、改めて宿題だと認識した。

- 京田地区に住んでいる。県外から移住して2年ちょっと。就職で来た。

前提として、鶴岡いい場所だなと思っている。

市長のお話のとおり、市民とレベルを合わせて対話を進めて行くのが大事。

10万都市だからこそ、こうして話せるし、意見をもとに変わって行く、というのが可視化されていて、参加することによって、いい方向に変えていけると感じている。

市長だけでなく各課レベルでも、こういった会が色んな場所で開かれるのが理想的。市民それぞれ課題を感じているし、その課題を集約して施策に落とし込むのが重要。

一方市民側も、不満もあるにせよ、どうしたら良い方向に持っていけるか、一緒に提案していくのが大事。そのツールとして、対話がある。

「本当の豊かさ」はそれぞれ違うが、その中で市民一人一人が考えることによって、精神的豊かさが生まれると思うし、真の自立分散型の自治が生まれると思う。

移住してきて、地域コミュニティが強いと思うが、自分達だけを守るような、他人を排除するようなコミュニティではなく、本当の豊かさを実現するための本質的な、具体的な解決策を考えることが必要。

- この会議にせよ、地域の集まりにせよ、市役所の各部課係のレベルにせよ、自主性が大事。

主体性を持って考え、納得しないと、なかなか動かない。

自主性というものをいかに発揮していくかと考えると、構えずに自由に意見を出せる場を、色んなレベルで作っていくことが大事。そこでの閃きをもとに、仕事を進めていく。

また、今日もいろんな方が集まっているが、この多様性が大事。

多様な声をいただいて、市政に反映させていくというのが、私の理想とするところ。

この場の作り方も、お役所チックという指摘もあったが、どうしてもそういう限界がある。

市役所だけでできることには限界があるので、民間の皆さんにやっていただけたところは民間の皆さんでやっていただく。そういうパートナーシップも重要。

- 1学区に住んでいる。2人の子供がいて、10月には第3子が生まれる予定。

「子育てしやすいまちか」と言われれば、しやすい部分もあれば、しにくい部分もある。

共働きしないと生活ができないということもあり、少子化や未婚者の増につながっているのではと考えている。子供ができたからお祝い金、という市町村もあるようだが、（鶴岡の規模では）全員にとというのは難しいとも考えている。

鶴岡公園の水遊び場の整備や、ソライの無料券等の施策に感謝している。今後もこういった機会を設け、子供が育ちやすい環境について対話を重ねて、検討していけるとよい。

- 子育てしやすいまち、その前に結婚するという選択に至るか至らないか。

今、だいぶ考え方が多様化している。

男性も女性も、今はもう男女だけじゃない。LGBTQ、そういう時代。
誰もが自分らしく、自分の選択で活躍できる、そういう社会を目指していくことを考えたときに、この街に住んでいる方々が、鶴岡がいい街だと、それぞれの立場から思えるような街にしていかなければならない。

従来この地域にも、男性優位の思想があったと思うし、未だにどうしても意思決定の場に、男性が多いみたいなどころがあり、子育て世代、これから結婚をどうしようかと迷っている方々、特に女性の声が反映されているものか、非常に悩んでいるところ。

多様な皆様の考えを前提としつつ、その方が活力を持って、この街に住みたい、ここで結婚しよう、子育てをしようと思える街になっていくための、本質的なところに迫っていく仕事を、組み立てて行く必要がある。

- 他の市町村でやっているような移住支援とか、第2子、第3子への支援金の拡充の予定はあるものか。私の友人も、Uターンで帰ってくる時に、残念ながら鶴岡市が選ばれてない。隣の市町村に、住宅を建てると1年ごとに支援金をもらえるような制度があると、そちらを選ん
でしまう。

- 鶴岡市の移住者、子育て世代に対する支援の情報を整理する必要がある。

訴求力を高めるにはどうすればよいのか等、発信方法を整理する。

また、移住や、子育ての負担軽減施策にあわせ、女性が働きやすい職場づくりや、賃金の底上げ、地域の産業の底上げ等、鶴岡に住むということの魅力を出していくために、もう1歩、行政と民間が踏み込んで考えていく必要がある。

- 大山に住んでいる。3歳の子どもがいる。

東京で妻と結婚したが、東京だと子育てができないなと思い、Uターンしてきた。

鶴岡も足りないことは色々あるが、工夫しながらやっていて、満足している。対話というものに興味があり参加した。行政がどのように開催し、どんな人がきているのか関心があった。どんな雰囲気か楽しみにしてきたが、行政チックな印象。

自分としては鶴岡はいいところと思い、Uターンしてきたが、地域にずっと住んでいる人は、地元に対する自己肯定感が低い。

行政に任せるだけでなく、自分達でも対話の場を設け、色んな人の意見や話を聞くとともに、自分の話を聞いてもらえるという環境であれば、自己肯定感も育まれ、より住みやすい街、「子育てしやすいまち」という認識につながると思う。

- 行政の仕事で重要なのは、究極的には次世代の人づくり。

この鶴岡にお住まいの方が、まず鶴岡をみんなでいい街にしていこうと、それぞれの観点から認識し、また、自分自身を認めて、この市の様々なことに参画していくというような、
そういう市にしていけるのが、長い目で見ると市の発展に大きく貢献してくると思う。

対話の場をしっかりとって、活性化させていくべき。もっといい意見交換の場が持てるように我々も頑張っていきたい。

- 田川地区に住んでいる。3歳の娘、託児していただき大変ありがたい。

皆さんの意見と、市長がこんなことを考えて行動しておられるということを聞いただけでも、参加してよかった。

市の取組を広報等で見ても、身近に感じないこともある。実際にお話を聞いたり、色んな思いを聞いたりすると、私たちのためにやってくれているんだな、と感じる。

私は鶴岡で生まれて、1回外に出たが戻ってきた。就職も子育ても鶴岡でしている。

鶴岡以外から来た方が、色んな意見を持っていらっしゃることに気づいた。

移住者やUターンする人が増えると、外から見た鶴岡のよさに、住んでいる方も気付けるのではないかと。移住者の支援をもっと手厚くすることも、お願いしたい。

消滅可能性都市の話だが、隣の町は、消滅しないという結果になっていたの、なぜだろうと思っていた。その違いなども検証しながら、鶴岡の良さを生かして、もっと子育てしやすいまちになってほしい。

子育てして思ったが、行政以外にも、地域の方たちで、自主的に子育て支援の活動をされている方々がいらっしゃる。

ベビーマッサージやお風呂託児、食育講座等の活動をしてくださっている。

見えない部分で、活動してくださっている方もいるので、どんどん知ってもらうとともに、市から支援や場所の提供等もあってもよいのではないかな。

- 本当に見えないところで一生懸命やっただけでいる。自主性をすごく誇りに感じている。

鶴岡は、一生懸命実践されている方が、たくさんおられる。

その一方で、若い世代が結婚を選択しなくなり、子供の数が減っている。その問題に立ち向かっているが、全国的な取組の中の一部として取組んでいるだけでは、埋もれてしまうのではないかなと思う。

鶴岡に移住していただいている方々が魅力に感じているところ、「世界に誇れるものなんだ。日本の中でも特筆すべきものなんだ。」というものが私たちの地域にある。

この総合計画も「毎日おいしい、ここで暮らしたい」というのが、キャッチコピーになっている。本当の豊かさというのが、目指す都市像。

市民の皆様にも本当に喜んでいただける、幸せだと思ってもらえるような場面を増やしていくことが、我々の大きな使命だと思っている。今日初めての、こういう形式での対話集会だったが、またいろんな形でやっていきたい。

具体的な話も出たので、しっかり持ち帰って、政策に反映できるように努力をしていく。次にお会いしたときに、「あれどうなりました」というときに、少しは前進できるように、検討を進めていきたい。

以上